

感慨無量の一瞬だった。AMD Aの国際連合経済社会理事會総協賛資格を認める」と議長が宣言した。今年一月二十日午後四時三十分、ニューヨークの国連本部であった同理事會NGO(非政府組織)委員会の席上。一九七一年にAMD Aの源流である第一次岡山大医学部クワイ河医学路査隊を派遣してから三十五年間の歴史が、走馬灯のように頭の中を駆け抜けた。

総協賛資格は、国連が市民社会の意見を聴く時に、政策提言(新たな検討事項を提案する)ができる団体として与える資格である。赤十字国際委員会、国境なき医師団など百三十六団体が認定されている。アジア、アフリカ、中南米などに二十九カ国の支部がある多国籍NGOのAMD Aは百三十七番目、日本では四番目の認定団体である。

三十五年間、理念として掲唱してきたのは「多様性の共存」。簡潔に言えば、「違い

AMD A 理事長
菅波 茂

今を読む



すがなみ・しげる 1946年
福山市神辺町生まれ。77年岡山大学院医学研究科修了、81年内科医院開業。84年AMD A設立。91年AMD A国際医療情報センター設立。2003年吉川英治文化賞受賞。著書に「AMD Aの提言」、「医療和平」など。岡山市。

は財産」である。物の見方、コミュニケーションがあまり考え方が異なる人たちが問題はない。しかし、アジアどうすれば一緒にやっつけていけるのか、その方法を求め続けるのかよくわからない。

ているのに。これは大問題だと思った。AMD Aの理念を説明した。「友のためである。友とは幸せも不幸せも共有する。困った時はお互いさまである。相互扶助である。苦労を共にする人間関係はパートナーシップである。助け合っている過程で尊敬と信頼が生まれる。この新しい人間関係がアジアの多民族、多宗教、多文化などの

シップになるのは気をつけたい。Oと比較すれば信じられないくらいに少額である。ではなぜ認められたのか。ローカルインシアチフのおかげである。人脈は最良の財産である。情報、知恵、判断、時には資金も入ってくる。自己責任と危機管理である。危機管理なきプロジェクトは自滅してしまふ。幸運はすべて人がもたら

「多様性の共存」を追求

ローカルインシアチフ

を公表してほしい」と。端的に言えば、「アジアの人たちには助け合うのだ」と説明した。

会場にはスタン、イラクなど紛争を抱えている国々の代表として参加した。担当から前日になって要請された。「国連難民高等弁務官事務所と欧米のNGOとは良

国際社会では「平和表現のインシアチフ」は常に欧米を中心とする先進国によって提唱されてきた。「人道」のコンセプトのもとに。発展途上国からのローカルインシアチフは封印されてきた。「相互扶助」のコンセプトに基づくローカルインシアチフの政策提言こそ二十一世紀の課題である。「多様性の共存」に不可欠であるという。有言実行

二〇〇四年九月。ジュネーブにある国連高等難民弁務官事務所本部で支援国会議の前会である。AMD Aの代表として参加した。担当から前日になって要請された。「国連難民高等弁務官事務所と欧米のNGOとは良連機関に多額の資金を拠出し

「ローカルインシアチフ」で多様性を乗り越えて共存を可能にする。だからアジアの人たちは助け合うのだ」と説明した。会場にはスタン、イラクなど紛争を抱えている国々の代表として参加した。担当から前日になって要請された。「国連難民高等弁務官事務所と欧米のNGOとは良連機関に多額の資金を拠出し

AMD Aの年間予算は四億五千万円である。総協賛資格が認められた総協賛資格がお役に立つては本望である。